

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0772500393		
法人名	社会福祉法人 にしあいづ福祉会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	福島県耶麻郡西会津町登世島田畑乙2042番地60 (電話)0241-48-1583		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年11月8日	評価確定日	平成20年1月28日

## 【情報提供票より】(2007年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算7.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	150円	昼食 350円
	夕食	280円	おやつ 円
	または1日当たり		780円

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4			
要介護5	要支援2				
年齢	平均 84歳	最低	77歳	最高	89歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西会津診療所、郡岡診療所
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は自然環境に恵まれ、町の保健・医療・福祉ゾーンの一部に位置している。自然のふれあいを生活の一部として上手に取り入れ、地域の中で一人ひとりの暮らしの継続に繋がっている。ホームには広い畑があり、四季を通して作物を育てている。自家製の漬物や新鮮な野菜を使った料理が毎食のように食卓にあがる等、収穫の喜びを感じながらのんびりとゆったりとした生活を送っている。収穫の喜びはいろいろな場面づくりにも活かされ、保育園児のいも掘りや、学童保育の子供達と採り立ての野菜を通して交流にも役立っている。立地条件上地域住民との関係作りには課題も多いが、地域とのかかわりを大切に、積極的に地域の中に入って行き、入居以前からの通い慣れたお店や、文化祭に作品を出品し賞をいただいたり、お祭り、敬老会等に参加し継続的に馴染みの関係を築いている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 利用者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援や利用者の状態に応じた職員の確保については、パートを1名増員し、入浴介助に当たっているが、勤務体制の改善がされていないために夜間(就寝前)の入浴支援は行われていない。介護計画はセンター方式を導入し、個別的な介護計画の見直しに取り組んでいるところである。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んだ。その結果、日頃のケアの振り返りや、自ら業務の点検の機会になった。さらに、事業所として何が足りないのか業務の見直しの機会になり、改善に向け取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5) 会議設置運営要項は作成したが、参加メンバーが未決定のため開催はしていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関に意見箱の設置するとともに年3回の家族会の開催時にホームに対する思いや、利用者にとどのような生活を望んでいるのか、意見や要望が気軽に言える機会を設けている。家族等から得られた意見や要望は、職員会議にて検討し運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域とのかかわりを大切に、積極的に地域の中に入って行く取り組みをしている。地域住民の一員として文化祭に作品を出品したり、お祭り、敬老会に参加したり、近隣の保育園児と芋掘りを行ったり、学童保育の子供達と野菜の収穫を通して交流している。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	常に利用者の立場になって、日常生活で大切に行っている「やさしい笑顔で、やさしい心で、やさしい目で」を全職員で作りあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のサービスにおいて理念の実現に向け、朝夕の申し送り時には理念の確認を行い、職員の意識付けに努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは、保健・医療・福祉ゾーン内に位置しているため、地域住民が訪れる機会はありませんが、地域の文化祭、お祭り、敬老会等に参加したり、近隣の保育園児と芋掘りを行ったり、学童保育の子どもたちが遊びに来るなど、地域の方々と積極的に交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組んだ結果、職員の意識付けやケアの振り返りの機会になった。さらに事業所として何が足りないのか業務の見直しの機会にもなり、見出された課題について、前向きに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>管理者は運営推進会議の意義や役割を理解し、会議設置運営要項を早期に作成したが、参加メンバーが未決定のため開催はしていない。</p>		<p>運営推進会議は地域の理解や支援を得るための貴重な機会であり、意義や役割を十分に理解して参加していただけるように利用者の家族や地域の関係者等を含めて実施に向け働きかけを行ってほしい。</p>
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年3回の家族会開催時に金銭管理や受診結果の報告とともに、利用者の状況によって個別面談も行っている。当日出席できない家族にはお便りで報告している。また、日々の暮らしぶりは町のケーブルテレビでも伝えている。職員の異動がある場合は家族会で伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置するとともに、家族会で家族のホームに対する思いや、利用者にどのような生活を望んでいるのか、意見や要望を気軽に言える機会を設けている。出された意見や要望は職員会議で検討し、運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は殆どないが、あった場合は家族会にて利用者、家族に説明し伝えるようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に段階に応じた受講体制がある。参加した後は職員会議で報告している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、管理者と職員は施設見学会や勉強会を通して同業者と交流している。また、同業者と情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/	/	/
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は、洗濯物のなたたみ方やすり鉢の使い方等を教えていただいたり、忙しく動いていると「落ち着いてゆっくり」等と声をかけられたりしている。また、職員が利用者に励まされたりすることがあり、様々な生活場面で自然に学んだり、支えあう関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、何気ない表情や、散歩している時のつぶやきにも耳を傾け、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のかかわりの中で、利用者の意向や家族の希望の把握に努めているが、利用者の様子や気づきを取り入れ一人ひとりが具体的にどう暮らしたいのか介護計画に反映されていない。		職員の視点から見た介護計画ではなく、利用者がどう暮らしたいかを把握した利用者本位の介護計画を作成してほしい。また、個々の記録は、介護計画に活かせるよう記入してほしい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	居室担当制をとり、職員会議で意見交換は行っているが、利用者の状態変化や状況に係らず半年に1回の見直しとなっている。状況変化に応じた随時の見直しは行っていない。		利用者、家族等の意向や希望の確認をしながら、状態変化に応じた随時の見直しを行い、見直し後は達成状況や計画が個々の状態にあっているか評価するようにしてほしい。
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の殆どは入居以前からのかかりつけ医で、継続して受診している。事業所の協力医療機関は、24時間対応でいつでも相談や助言をいただける関係を築いており、往診も可能である。受診は原則として家族対応であるが、状況によって職員が支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の方針として、重度化や共同生活が継続できなくなった場合は退居の対象としているため、契約時に家族等に説明し同意を得ている。退居に当たっては関係機関と連携し、退居後について支援している。		利用者や家族の意向を確認しながら、重度化に伴う事業所としての対応のあり方について前向きに検討し、安心してサービスが利用できるように期待します。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	管理者は職員会議や申し送り時に言葉かけやプライバシーに関して話しているが、利用者との会話はほとんど親しみのある語調でのやりとりである。排泄時の誘導は、さりげなく耳元で声掛けしている。ケーブルテレビで放映や広報誌の掲載については家族の同意を得ている。		くだけた語調は利用者の誇りを損ねかねない場合もあるので場面や状況にあわせて、適切な言葉で対応することに心掛けてほしい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの廊下で散歩や編物をしている利用者がいたり、職員は利用者の家に帰りたいたいという様子を察知した時には、自宅で過ごしてもらう等その日の状態や思いを大切に、一人ひとりのペースで過ごせるように柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員の育てた新鮮な野菜は種類も豊富で漬物や食材にふんだんに利用されている。収穫、買物、準備、あとかたづけも一緒に行っている。また5のつく日には食前酒と刺身の日と決め、利用者一人ひとりが食事を楽しめるように取り組んでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆったりと入浴できるように1人の入浴時間を制限せずに支援している。入浴時間は毎日午後2時から5時と決まっているが、夜間(就寝前)の入浴を希望している人もいる。		希望する時間に入浴できるよう、職員の配置(遅番)の工夫等について検討してほしい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	どんぐりで作った暖簾が町の文化祭で賞をいただいたのがきっかけとなり、木の実や枯れ葉を利用して干支の壁掛け作りに取り組んだり、作物の収穫、ゴミ出し、洗濯物たたみ、食器拭き等、日々の生活の中でその人にできる事が、自然に役割や楽しみごとになるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	一人ひとりの希望や状況に合わせて毎日食材の買物、散歩を兼ねたゴミ出し、公園の散歩、外食等出掛ける機会を積極的に取り入れている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関ドアの開閉をセンサーで察知し、鍵をかけていない。利用者がホーム外に出ても引き止めることはしないで散歩に切り替えたり、ベンチでおしゃべりをして過ごすなど見守りながら自由な暮らしを支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回法人全体で避難訓練を行っている他、グループホーム独自で避難訓練を実施している。また、夜間想定をした訓練も行っている。連絡網による通報訓練、消火器の使い方、シーツを使用する方法等、町消防団も参加して実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量は把握していないが、水分や残食量はケアチェック表や業務日誌に記録している。収穫された野菜を献立に取り入れ、量よりも品数を多くする等献立に配慮している。		法人の栄養士の協力を得て定期的に献立表の栄養バランスのチェックをしてほしい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コタツの周りではそれぞれの定位置で編物をする人、テレビを観る人等、自由に思い思いに過ごしていた。換気は朝晩毎日行っている。窓際の日差しには向日葵や朝顔などの植物で光をやわらげる工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に持込品は少なくスッキリしているが、今迄大切にしてきた座イスや、衣裳ケース、家族写真、趣味の編物道具等を活かし居心地よく過ごせるように配慮している。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。



3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名	グループホーム のぞみ
記入担当者名	物江 義栄

評価結果に対する事業所の意見
特になし

**評価結果に対する「事業所の意見」の記入について**

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。